

IUPAC 2011 国際分析科学会 (ICAS 2011) に参加して

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 竹内政樹

2011年5月22日から26日の5日間、国立京都国際会館に於いてIUPAC 2011 国際分析科学会 (ICAS 2011) が開催された。3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波による東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所の事故による影響で参加者の減少が懸念されたが、全参加登録者は1000名(外国人参加登録者: 約250名)を超える大規模な国際会議となった。本国際会議では、20のシンポジウムが開催されたが、筆者はフロー分析を専門としているため、主に、フロー系のシンポジウム“Environmental Analysis, Advanced Flow-based Analytical Chemistry”に参加した。

24日から始まるフロー系シンポジウムに先立ち、23日の夕刻に、海外から本国際会議に参加されたフロー分析に関わる研究者の歓迎会が開かれた。海外からは、本シンポジウムで基調・招待講演をされる先生方をはじめ、先生らのご家族と学生の総勢11名が参加された。歓迎会は和気藹々とした雰囲気で行われ、参加者全員がひとつの大きな家族のように感じられた(写真1)。

24日の午前に、Kate Grudpan先生(Chiang Mai University, Thailand)より、“Cost Effective Flowed Based Analysis: An Advance Consideration in Environmental Analysis?”と題する基調講演があった。ウェブカメラを装備したラボ・オン・チップを使うことでコストパフォーマンスを向上させた分析手法が紹介された。続いて、8件の一般講演があった。いずれの講演も興味深かったが、筆者は特に、手嶋紀雄先生(愛知工業大学)が発表された“Hybrid Flow Injection-Stopped in Loop Flow System for Successive Determination of Hydroquinone and

Quinone”に興味を惹かれた。一般的なフローインジェクション分析とストップドフロー分析をハイブリッドすることで、化学反応の速い hidroキノンと反応の遅いキノンを逐次定量するという両フロー分析の特徴をうまく生かした分析手法であった。午後からは、14件のポスター発表があった。タイの研究者の発表が非常に多く、タイでフロー分析が盛んであることを改めて感じた。同日の夕刻には、学生および若手研究者の国際的なネットワーク作りを目的とした“Session Table Mixer for Young Scientists”に参加した。普段はあまり交流のない外国人研究者と話を交わすことができ、大変貴重な経験となった。

翌25日は、Marek Trojanowicz先生(University of Warsaw, Poland)より、“Molecularly Imprinted Polymers as Tool for Trace Flow Analysis”と題する招待講演があり、分子インプリントポリマーをフロー分析に組み込んだクロラムフェニコール残留物の定量法が紹介された。この日は、先の招待講演の他に6件の一般講演があり、幸運にも筆者はここで発表する機会が与えられた。筆者にとっては、国際会議における3度目の口頭発表であった。発表前は、日本語での発表とは比較にならないほど緊張したが、発表を始めると不思議と落ち着いて話すことができた。しかし、質疑に対する応答は、まだまだ不十分であり、自分の勉強不足を痛感した。25日の夕刻には、国立京都国際会館に隣接するグランドプリンスホテル京都で盛大な懇親会が開かれ、舞妓・芸妓の舞や三味線などの芸が披露された。

最終日の26日は、Victor Cerdà先生(University of the Balearic Islands, Spain)より、“Radiochemical Multicommutated Flow Techniques Applied to Environmental Samples”と題する基調講演があり、FIA, SIA等の様々なフロー分析法を環境試料中放射性同位体の定量に適用した結果が紹介された。続いて、6件の一般講演と1件の招待講演があり、本シンポジウムは無事に終了した。今回のシンポジウムは、いくつかの講演が震災の影響によってキャンセルされたが、多数の大変興味深い講演を聴くことができたと同時に多くの海外研究者と交流を深めることができ、著者にとって大変有意義であった。

最後になりましたが、フロー系研究者の歓迎会および本シンポジウムを企画・運営して下さいました今任稔彦先生(九州大学)をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



写真1 海外から参加されたフロー分析研究者の歓迎会